

令和3年度

学生によるオレンジリボン運動

富山短期大学 実施報告書



実施主体 幼児教育学科有志(子育て応援サークル)

実施内容 オレンジリボンの配布、募金活動、

①事前に取り組んだ内容

授業やゼミ等で児童虐待の現状やオレンジリボン運動の主旨を学習し、理解を深めた。

認定NPO法人児童虐待防止全国ネットワークのホームページから、全国の学校での取り組みを参考に自分たちに何ができるかを検討した。

また、富山県氷見市で行われたハンドボールチームアランマーレ富山のホームゲームでのオレンジリボン運動、学内でのオレンジリボンブース設置、子育て支援イベントでの発信を行った。募金箱の製作。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

子ども子育て支援イベントの中で、オレンジリボンの配布、オレンジリボン作成のワークショップ、縁日、配色型の子ども食堂、就労支援事業所の焼き菓子委託販売、募金活動、オレンジリボン運動の啓発・広報ポスターの掲示

学内にオレンジリボンのブース設置

募金活動で集めたお金で児童養護施設、乳児院へのプレゼントの寄贈

③オレンジリボン運動を終えて…

昨年度の先輩たちからの活動を引き継ぎ、活動を行った。

民間企業主催のイベントでは、オレンジリボンのワークショップや啓発・広報ポスターの掲示を行った。たくさんの方の目にとまる機会になり、学生自身もオレンジリボンに関する理解が深まったと感じた。

富山のインクルーシブ子育て応援を行っている、保護者サークル

「kanon.」さんとコラボし、医療的ケア児や障がい児に関する啓発・広報活動も同時に行った。実際に障がい児を育てるママから、「学生がこのような活動を行い、社会に認識が広がって



写真①5月に開催した民間企業主催のイベントでのブース出展

いくのが嬉しい」といった声があった。ママたちの力になっているのだと感じ、嬉しさと大きな達成感に繋がった。

また秋には、コロナの影響もあり、オンラインでの子育てイベントを開催した。家庭から気軽に参加でき、多くの家庭と繋がることができた。外出が自粛されている中で、人と言葉や表情を交わすことが喜びや温かさを生み、人との繋がりの大切さを改めて感じた。

年間の募金活動で集まったお金で児童養護施設や乳児院へプレゼントを寄贈することができ、とても喜んでもらった。12月ということでクリスマスの衣装で伺った。子どもたちに自分達の手からプレゼントを渡すことができた。子どもや職員の方から「ありがとう」という言葉をかけていただいた。取り組んできた活動が社会に貢献でき、子どもたちの喜びに繋がっていることを実感し、自分たちの活動に自信を持つことができた。

オレンジリボン運動が社会の理解や認識に広がっていくためには、継続することが大切であると考えます。今年度取り組んだ活動を後輩へ引き継ぎ、学生が継続して活動を行うことで、学生のオレンジリボンに対する理解が深まり、貴重な経験を積むことができる。また、保育者として子どもたちや保護者、地域の方へとオレンジリボンについて伝え、児童虐待防止に対する認識を広めていきたい。



写真②10月に開催したZOOMでの子育てイベント



写真③乳児院へプレゼントの寄付



写真④アランマーレ富山のホームゲームでのオレンジリボン運動と食材提供の写真